

1 ※横須賀市からの発表案件はありません。

■発表案件以外の質疑応答

※冒頭、市長より発言

市長

7 月 25 日から 8 月 2 日までの 9 日間、渡米いたします。主な訪問先はワシントン D. C. のペンタゴンにある米海軍作戦本部、そして米海軍原子力推進機関部、米國務省、在米国日本大使館とホノルルの米太平洋艦隊潜水艦指令隊司令部そして米太平洋軍在ホノルル総領事館です。なお、面会者については現時点では調整中です。私からは以上です。

記者

3 期目の任期のスタートが本日と同じ日でした。その後、浦賀の再開発や大矢部の整備など進展があった一方、日産の追浜工場の閉鎖が正式に発表されるなど厳しい環境も生じております。あらためまして、この 1 年を振り返っていただくと共に、次への課題にどのように向かっていくのか所感をお伺いします。

市長

ご説明いただいたように、浦賀の再開発が入口、途に就きました。それから大矢部の公園が様々な経緯の中で返還されて、三浦一族発祥の地として再整備するという、私の悲願だった 2 つが、昨年、当選してから、ある一定の途に就いたことは非常に嬉しいことだと思っております。私がやらなければならないことだと思っておりました。ただ、今、おっしゃったように横須賀は大企業が少なく、上場企業がニフコさんしかいないという状況です。これは戦前から抱えてきた横須賀の産業構造で、まさに中小企業だけでしかなかった。その中心であった日産さんが横須賀から出ていくのは経済的に、大変、痛いし、横須賀のシンボルであった日産さんが無くなることは市民にとっても、大変、大きな痛手だと考えております。ただ、これは流れですから、良いこともあれば、逆に悪いこともある。これはいつの時代でも歴史の背景から当然のことだと思っています。それを踏まえた中で、これから先を見据えて何ができるかを考えながら、日産さんの跡地についても、市民にとって、経済的に、あるいは市民のためとなるような、様々な仕掛けづくりについて、お手伝いできることをしたいと思っていますので、まずは、日産さんの再生を期待したいと思っています。この 1 年で様々なことができあがったと、ようやく完成に近づいているなと感じています。福祉と経済の両輪、この 2 つを回しながら再開発について新しい芽を、横須賀の芽を芽吹かせたという、私の本来の役割は、ある一定の流れの中で着地点に近づいているのではないかと思います。また、ご承知のとおり、東京からファミリー層がかなり転居していることも、観光・福祉の流れの中で、横須賀の与えられた景観、自然環境がありますが、様々な意味で横須賀が、改めて脚光を浴びて、多くの皆様に理解され、様々なことで観光や転居の対象になってきたのは大変うれしいことだと思っています。

記者

冒頭、市長がおっしゃっていた訪米について、改めて、目的、狙いをお伺いします。

市長

いつも申しあげていますが、極東最大の米海軍の基地と、陸・海・航空宇宙自衛隊を抱える街の地元の市長として、米海軍基地と自衛隊施設を市民の理解を得ながら、安全に、そして安定的に運用していくことが重要だと思います。現在も厳しく複雑な安全保障環境において、日本の平和と地域

の安定のためにも、横須賀市と米海軍の強固なパートナーシップが、今後もゆるぎなく維持されていくことの重要性を双方で確認したいと思います。そのためにも、一自治体の首長としての立場ではありますが、今回の訪米を通じて、米国の政府機関や米海軍の幹部の方と面会し、顔の見える関係性をしっかりと構築したいと思っています。また、横須賀は世界で唯一、米国以外で原子力空母が配備されている街です。原子力空母が安全に、そして安定的に運用されていくことが重要であり、そのためにも推進機関については、これまでと同様に米国の厳しい基準による運用が厳格になされ、その安全性について、引き続き安全対策を求めたいと思います。そしてここが大切ですが、信頼できるパートナーシップには、ルールを守る事が欠かせないと思っています。地元の首長として、米海軍の皆様の高い意識とモラルある行動を求めていると思います。これは毎年申しあげているところです。

記者

9日に綾瀬の市長が外務省や防衛相を回って、厚木基地の申し入れをしたと承知しています。こうしたアメリカへの直接の行動に加えて、日本政府側への申し入れなどのご予定はございますか。

市長

これは、私独自で米軍と話をしていますので、日本政府に申しあげることや、報告することはありません。

記者

市長が米軍関係に渡米するのは、何年振りでしょうか。

横須賀市 市長特命参与

前回は2023年です。

記者

何月でしょうか。

横須賀市 市長特命参与

2023年の10月です。

記者

これが2回目でしょうか。

市長

3回目です。

記者

その前はいつでしょうか。

横須賀市 市長特命参与

後ほど資料をお渡しさせていただきます。

市長

コロナで行けないときもありました。

記者

任期中、4年に1回行くのでしょうか。

市長

3年に1回になると思います。

記者

あともう一点、(アンドゥリル・) インダストリーズ、米防衛企業の話ですが、ロイター通信が報道いたしました。信ぴょう性は(報道機関の)各社が判断していると思います。5月には、松沢参議院議員が、横浜ノースドックを追浜工場の跡地に移転させたらどうかと話をされたときに、市長は、即座に「到底受け入れられるものではない」という声明を発表されて、今もホームページに載っています。今回の場合も市民団体や共産党から、旧軍港市転換法に基づき、受け入れ拒否を表明するべきだと要請を受けていると思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

市長

まだ、この件については会社に問い合わせても、そのような事実はないとお聞きしていますし、現実にそのようなことがあると理解していませんので、その点については、今はご返答できないと思っています。松沢参議院議員については、私は昔からよく、田川さんの時代から、知っている関係です。県知事も務め、国会議員もやっている方が、なぜ突然、横須賀にノースドックの話をするのか、軍転法や様々な横須賀の歴史がある中で、唐突に国会であのような質問をするのは、見識を疑うと、今でも思っています。これからも同じようなことがあれば、どなたでも私は発言をさせていただきたいと思っています。

記者

日産に、事実はないと確認したのは、ロイター通信の報道があった後に市長が確認したのでしょうか。

市長

日産さんから連絡がありました。

記者

本社の日産の方から市長に電話連絡があったのでしょうか。

市長

私ではなく、副市長が受けました。それで、私は報告を受けています。

記者

ロイター通信の報道の後で良いですね。

市長

もちろんそうです。

記者

協議している事実はないということですね。

市長

もちろんです。

記者

訪米の件で、顔の見える関係とのことでした。米海軍の作戦本部含めて要所、要路を回られるわけですが、ルールを守るということと、その前段で言われた、これだけの要路を回る中で特定のテーマ、原子力推進の安全性は当然と思いますが、それ以外に何か、「これを話しに行く」という、これだけの要路を回られる中でのテーマをお持ちでしたら教えてください。

市長

やはり、現場、前のジョージ・ワシントンの際に、大西洋上でジョージ・ワシントンに乗りまして、

ルールを守ってほしいと話をさせていただきました。私は横須賀市民として皆様を歓迎するとも話をしました。ある意味では、その効果でジョージ・ワシントンの乗組員は、安心して横須賀に来られ、様々な問題が生じなかったと自負しているところがありまして、それが私の役割だと思っています。健全な日米関係を構築するには、横須賀の自治体、首長の役割はすごく大きいと思っています。そのためにも、直接、顔の見える関係で、おかしいものはおかしいと。日本の政府以外にも、直接いろいろな事を伝えていただけるような人間関係を構築したいと思っています。それが横須賀の首長の役割だと思っています、ですから、全ての要人に会いたいと思っています。そして、おかしかったときには、自分の考えで、国ではなく、直接お伝えしたいし、直接連絡いただきたいと思います。政治がどうであろうと、一自治体の首長として何ができるか、一自治体でできることは、たいしたことではありませんが、横須賀の首長としてやらなければならないことだと思っています。

記者

市長の訪米について、米側には、モラルについてもお話をするとおっしゃっていたかと思いますが、例えば、具体的なことを何か申し入れを行うなどあるのでしょうか。横須賀市内では米軍の兵士による事故などありましたが、それについて具体的な対策を求めるなどあればお伺いします。

市長

よくお話をするのですが、去年の4月から事故が起きていないのですよね。以前の事故も含めて、直接的な言い回しではありませんが、よく理解していると思いますので、それも含めてルールを守っていただきたいと申しあげるのが、私の役目だと思っています。

記者

今回の訪米で、例えばアメリカ側の軍需産業など、何か関係者との面会のご予定はございますか。

市長

ありません。国政に関する事項には関与しないつもりです。あくまで、一自治体の首長として、できる事をやりたいと思っています。

記者

追浜の件についてお伺いします。市長は昨年9月に議会答弁の中で、一部報道の中でI Rの話が出た際に、I Rは追浜にそぐわないと話をされていました。また、松沢参議院議員の発言の際にも声明を出されました。今回のアメリカの新興防衛産業について、軍転法で、追浜に日産が来たときのように、今回、防衛産業が仮に来た場合、横須賀に馴染むのか、軍転法で平和産業港湾都市を掲げてきた横須賀市のアイデンティティと齟齬が生れるのかどうか、どのようにお考えでしょうか。

市長

申し訳ございません。仮定の問題には、今のところ、お答えはできません。

記者

来年の統一地方選挙に向けて、市議会議員の活動が一生懸命になってきております。前回の議会の一般質問では、2日間で18人（※1）くらい、終わったのが20時から21時くらいでした。市議を経験されている市長ですが、今、職員の健康をあずかる市長という立場にあると思います。18人（※1）来た場合、2日間で18人（※1）行うのが良いのか、3日に分散して行うのが良いのか、働き方、職員の皆様の過重労働というか、勤務が長くなってしまうことを、どのようにバランス取るのが良いとお考えでしょうか。

市長

議会と相談しなければならないと思いますが、おっしゃるとおりだと思っています。18人（※1）は初めてだったのですが、私の感覚からすると、私の時代は委員会主義を取っていたので、委員会所管事項は委員会ですべきということでした。今は、時代が変わって、委員会所管事項であっても大きな政策論争ではなくて、様々なことを直接本会議で質問する方が増えてきたの

で、今、おっしゃったようにこれからも増えてくるだろうと思います。考え方も違うし、多様化しているし、様々な政党もこれから出てくると思われたときに、昔の私の議員時代のことを言っても仕方がないので。いずれは2日だけではなく、3日間の可能性はあるので、今後の課題として議会と話し合いながらやっていきたいと思っています。

※1：記者会見後、6月議会の一般質問は「17人」に訂正。

記者

これから、今年、残り2回の議会がありますが、今すぐに議会に要望を出されますか。そこに関して配慮を求める、あるいは検討を求めるという要望は出されますか。

市長

今のところは考えていません。

記者

花火の日程が決まり、基地に頼らずともできてしまうのだと思ったのですが、今回の花火について混雑への対応や誘導で苦心された点があれば、教えてください。

横須賀市 文化スポーツ観光部長

今回、花火の打ち上げ場所を、500メートルくらい馬堀海岸の方に移しています。平成港沖に移し、海辺つり公園、馬堀海岸でもよく見える配置にしています。そこで、警備の体制ですが、駅、これまで横須賀中央駅であったのが、県立大学駅、堀之内駅といった、かなり狭い駅への集中が予想され、警備配備もかなり広くなるので、本当にこれができるのかと苦心したところです。これを米海軍基地まで広げていくと、相当な労力と、相当な人手が必要になるため、会場を移して警備体制を細かくしていくということを現在も警察と協議しています。そこが苦心しているところです。

記者

今のところ、別日で基地開放、フレンドシップデーを開催する話はございますか。

横須賀市 文化スポーツ観光部長

現在のところは、ございません。

市長

基地開放と花火は風物詩だったので、かなり多くの皆様に楽しまれてきたので。これも時代の流れかなと思っています。工夫をしながら続けていきたいという思いで、このような形になったとご理解いただければと思います。

記者

米兵の交通ルールについて、今週の7月7日に、2024年に亡くなられた方の事故の民事裁判がありました。その中で、交通ルールの教育というところに課題を感じられています。今、米兵の交通ルールに関して、改めて、問題点がある、米兵側から具体的にこういうことをやっていますなどの説明があって、話せるものがあったら教えてください。

横須賀市 市長特命参与

先ほど市長からお話ありましたとおり、今年になってから、米軍の交通事故はないのです。三者協議会を行って、在日米軍も、横須賀基地司令部も、交通教育については行っていると回答をもらっています。今後も国と三者で引き続き協議を続けていくことになると思います。

記者

説明とは、具体的にこのようなことをやっていますということに関する説明でしょうか。

横須賀市 市長特命参与

米軍と様々な話はしていますが、公表レベルには至っていないので、控えさせていただきます。

市長

最近、事故がないということで、本当にそうなのかと言われる方もいらしたのですが、少なくとも私の感じる限り、様々な顔の見える関係では、かなりの交通ルールのための安全教育がされていることは確信しています。ただ、これ以上、掘り下げるようなことを、こちらから言うことができない、三者協議がありますので。それだけのご理解いただければと思います。

記者

訪米について、これまでの2回も訪問先はワシントンD.C.やホノルルで同じ関係先を回られたのでしょうか。

市長

はい。そうです。

横須賀市 市長特命参与

先ほど3回目とお伝えしました。初回が2021年の8月（※2）、2回目が2023年の10月、今回の2026年の7月計3回です。訪問先ですが、ペンタゴンにある米海軍の作戦本部は、毎回訪問していて、今回も訪問予定です。それ以外は同じ場所というわけではありません。

※2：記者会見後、初回の訪問を「2019年8月」に訂正

記者

前は、ホノルルには行っていないということでしょうか。

横須賀市 市長特命参与

前回は、ホノルルに行きました。

記者

今回の訪米で、地元の小泉進次郎防衛相と、どのような連絡を取り合ったのでしょうか。

市長

何も取り合っていない。

記者

一切、取っていない。

市長

私の考えで訪米しますので。全部、自分でやっていますので。

記者

まったく、事前のすり合わせは行っていない。

市長

はい。すり合わせはないです。独自の考えだと理解していただければ。以前、訪米したときに、なぜ、一自治体の首長が行くのかと外務省から意見があったことがありました、外務省に行ったのですが、ちょうど、昔からよく知っていますが、河野太郎大臣のときで、「私はこのような考えで行きます」と伝えたところ「よろしくお願いします」とのことでした。それ以来、何も連絡をせず、独自で行っています。

上条副市長

日産さんの話が、先ほどありましたが、日産さんがどう言っているかについて、我々が回答したことが正確に伝わらないといけないと思いますので、改めて、どのように日産さんが言っているかをお話させていただければと思います。

「日産自動車として追浜工場の跡地について、今、引き続き検討を進めています。現時点で決まったことはない」とのことです。これまでいろいろな噂がありました。民間企業や国の機関などいろいろなものがありましたけれども、そのときも全く同じ回答をずっとしてきているということです。今回も全く同じです。

記者

I Rの話が出たり、あるいは台湾のHDCの話が出たり、今回の話が出たり、いろいろな噂が飛び交っている中で、市長として、日産に対して、速やかに跡地の利活用を決定してほしいという思いはございますか。

市長

それはありますが、まずは日産さんの再生が一番で、今までこれだけ長い友情関係があった日産さんの従業員の皆様の行く末と、日産さんの再興をまずは求めなければならないと思っています。その上で何がこれからできるか、日産さんに考えていただきたいと思っています。これ以上のことは日産さんに伝えるつもりはありません。それはよく理解していただいていると思っています。

記者

日々、取材活動をする中で、横須賀市の報道発表を参考にさせていただいていますが、最近元気がないなと思っていて、施策的な話が報道発表として見えてこなくて、不安に感じています。行政は前に進められていると思うのですが、市長表敬などの発表もありがたいのですが、施策的な発表もあるとありがたいです。

市長

施策の発表をしたいと広報課から話がありました。たくさん話を持ってくるのですが、これは皆様にお伝えするレベルにはない、言うべきものではなくて、当たり前のこととして前に進んでいくべきことだと理解して、突っぱねていることはあります。お伝えすることが、「何でこんなレベルなのだ」と思われることが嫌で、その辺りのタイミングが理解できずにいるのは事実です。

かなりの施策は前に進めています。三浦半島連合の話もどんどん進めています。どこまでをどのようにお話したら良いか、話題になるのがどの辺りのレベルなのか、まだ分かりかねるので、どうするか考えている最中です。

今日の記者会見でも、実は、夏休みの子育てについて、今まで様々な知恵を絞って、今までこれだけの成果があると、ザーッと、時系列的に広報課が持ってきて、これを皆様の前でお伝えしたらよろしいのではないかと saying いたのですが、これを発表しても仕方ないと言ったばかりです。

政策なのか、施策なのか難しいところがあると思います。今、問題になって、話題になりそうなのは大きくお伝えはしたいのですが、施策レベルでどこまで皆様にお伝えしたらよいか考えさせていただきます。他都市に先んじて、様々なことをやっています。ただ、それを一つ一つお伝えするのがよいのか、とは思っています。できればリリースをさせていただくのが良いのではないかと思います。かなりいろいろなことを行っていますので。ご容赦いただければと思います。

以上